

ベトナム 公的医療機関の収入 私立病院数

i) 公立医療機関

政府の財政難を背景に、現在、医療機関の独立性を高める傾向にある。医療機関、さらには同一医療機関内の部署ごとに、ある程度の幅で独立採算制を取っている。たとえば、売上に応じて、病院あるいは勤務者にボーナスとして利益還元をしてもよい（収益の約25%）。

病院の主な収入源は診療代金（1989年より導入。社会保険で定められた額）、薬の売上（薬価規制がないため、病院と製薬会社との交渉で薬価決定）、患者からのextra payments（私費診療分など）である。

通常、患者は正式な診療代金の他に、非公式な診療代金（日本でいう付け届け、謝礼？）を支払う。医師等に直接支払われる場合もあるが、病院に支払われたとしても、帳簿に記載されない。

ii) 私立病院

1997年、ハノイにできたフランス系病院が国内初めての私立病院である。私立病院は基本的には大都市にしかない。また、国全体でみると、入院設備をもつ病院はほぼ公立であり、私立病院の病床総数は全体の3%未満を占めるにすぎないが、近年は、私立病院の施設は増加傾向にある。

図表・5 私立病院の数

地域	施設数	病床数
合計	83	5,429
ハノイ	10	339
ハノイ市以外の北部	11	421
フエ	3	89
ダナン市	4	292
フエ・ダナン市以外の中部	10	688
ホーチミン	28	2,332
ホーチミン市以外の南部	15	2,116

出所) Health Statistics Yearbook 2008 を基に作成